

団体同士が連携して事業をしていく
にはどうしたらいいでしょうか？

アイデア紹介

幅広い年齢層が集まる機会



ゴミ減量『より多くの方に
関心をもって、
行動に移して
もらおう』

生活環境美化活動



体育祭
でチラシを入れた
水切りネットを
配る



おトク感 自然に参加

古紙回収

報奨金を活用して印刷

みなさんの
地区の活動や人が
どのように
つながっているか、
確認してみは？

まちの歴史を
知ってほしい

歴史発見講座



→冊子作成

→全戸配布

住民同士のつながりづくり

社会教育活動

【あえて説得しない・まずは参加を呼びかける】

鷹岡地区では、地域で子どもを育てることを実践しようと平成24年度から「通学合宿」を行っています。まちづくり協議会会長の松田幸雄さんは、この取り組みを始める際、「子ども」に関わる活動をしている団体にあえて説得はせず、まずは協力を働きかけ、できる範囲で参加してもらいました。そのなかで「なぜこれをするの？」という質問が出てくるのを待ちました。その時に、ねらいをしっかりと説明したのだそうです。すると、『参加するみなさんの関わり方が自発的になっていった』と話します。信頼関係と、活動という共通の体験があるからこそ、ねらいが理解されやすいのかもしれない。



鷹岡地区まちづくり協議会会長 松田幸雄さん

鷹岡地区まちづくり協議会会長 松田幸雄さん

地区に新鮮な意見を期待して～富士市立高校の総合的学習『究タイム』市役所プラン

富士市立高校では、毎年2年生の全生徒が、地域の魅力や課題を発見し、自分たちは何ができるか、半年間じっくりと向き合う学習を行っています。5月12日、生徒のみなさんが10のグループに分かれ、まちづくりセンターを訪れました。

松野地区では、まちづくり協議会会長西森共二さんからの歓迎の挨拶の後、4つのテーマで地区役員のみなさんと生徒がテーブルを囲んで地区の特性やまちづくり活動についてのミーティングを行い、地区の施設や史跡などを見学しました。役員のみなさんにとっては説明の準備をすることで、あらためて活動をふりかえる機会になったとともに、高校生からの新鮮な意見、提案に期待もふくらんでいました。



個々の活動の重なり合いをつくる

～鷹岡地区では、
体育祭で水切りネットを配布しました～
一見、「なぜ？」と感じる取り組みですが、個別の活動の架け橋のような重なり合いをつくることで生まれたアイデアでした。

コブタ②
地域のカゴ増進計画・ニュースレター
レポーター

まちづくり行動計画をつくるの巻



発行 平成 27年 6月
発行者 富士市民部まちづくり課
富士市永田町1丁目100番地(富士市役所3階)
電話 0545・55-2887
HP <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/>

まちづくり行動計画づくりの方法は、富士市内26地区でみな同じではありません。それぞれの特性を生かしながら進められています。他の地区の様子を知ることで、自分たちのまちの特徴がわかるかもしれません。少し周囲を見渡し、あらためて「わがまち」らしさを見つけ、計画に生かしてみませんか？

今、「まちづくり行動計画」をつくるのは…



このニュースレターでは、今年度完成を目標に、各地区で進められているまちづくり行動計画づくりの様子をお知らせするほか、協議会を運営していくうえでの課題に対応したヒントなどもご紹介いたします。それぞれの地区のまちづくり行動計画づくりや協議会活動の活性化にぜひお役立てください。

まちづくり行動計画にみんなの声を集めよう！



まちづくり行動計画のなかにかき込む地区の自慢や課題について、みなさんの地区ではどのようにまとめていますか？

26ある地区のなかには、地区についての情報や意見などを集め、計画内容に生かそうとしている地区があります。今回は、東部ブロックから吉永地区、原田地区の様子を紹介します。



吉永地区

まちづくり行動計画の進め方についての企画シートを作成する際、役員の中から「さまざまな意見をまとめて計画づくりをした

らどうか」という提案があり、アンケートを行うことにしました。寄せられたすべての意見をリストにし、3月の理事会まで意見交換を重ね、「課題」としてまとめました。今後は、委員会（部会）の活動内容を検討する時の参考資料としても活用していく予定です。

アンケートの内容は「歴史」や「産業」などの分野ごとに感じていることを自由に書いていただくとともに、「協議会のなかで行ってみたい事業」についても意見を求めました。



きっかけは地区同士の情報交換

東部ブロックでは、2月25日にブロック内の5地区の役員が集まり、「東部ブロックまちづくり協議会役員研修会」を開催し、まちづくり行動計画づくりについて話し合いました。計画の内容について話し合う地区、進め方について話し合う地区など、各々の進捗状況によって話し合うことは違いま



したが、他地区の発表を聞き、互いの状況を知ることによって貴重な情報交換の機会になりました。

この場で、原田地区のみなさんは、吉永地区でのアンケートの内容やまとめ方などの資料を参考にしながら話し合い、原田地区でのアンケートを企画しました。

代表的な意見を「例示」することがポイントだそうです。

1. 地区の自慢・課題等について

地区の自慢・課題等について記入して

地区の自慢

◇自然・歴史
例) 清らかな湧水。比喩に「地名」とも言われ、平安して記録されている。

◇産業・特産物
例) 製紙業が盛ん。お米、お茶。

◇生活環境・施設等
例) 自然豊かな土地柄。児童館がある。店舗の駅が

地区の課題

◇環境に関すること（生活環境、自然環境、子育て）
例) 不法投棄が多い。
・学校周辺の騒音。
・最終処分場の第三期工事が始められてしまうかもしれない。通常組織として、見つけて行くことが重要。
・ごみの回収や不法投棄が多く地域環境への配慮が足りない人が増えたり、ごみの問題が解消されない。
・富士山が世界文化遺産に登録され、富士市は表玄関となったが、観光客が増えるにつれてごみの問題が深刻化している。
・空き家、空き地、耕作放棄地の増加により、害虫の発生懸念される。
・少子化による児童・生徒の減少により、学校の存続や運営に係る課題。
・食料、衣料等生活に必要な商品が買えない。
・子ども達が遊ぶ場所が少ない。
・富士山には自然公園の隣、お盆の子どもを連れて来て遊べる場所が少なく、子どもから大人まで手に掛かる機会にめぐりあえない。
・吉永第一小中学校の通学路が急峻で、特に高齢者が通学に苦労している。
・道路が狭い。
・公園の整備が不十分。
・子ども達の遊ぶ場所が少ない。

◇安全・安心に関すること（交通、防災、防犯など）
例) 道路幅の狭さに交通量が多い。
・地震に対する避難訓練等は行っているが、台風やその他自然災害の発生時に避難所や避難経路が狭い。避難所も少ない。避難所が狭い。避難所が狭い。避難所が狭い。
・自主防災会の役員が、1年あるいは2年と短期間で変わる組織が多い。防災委員以外の人が防災に対する意識の薄化を感じる。
・不審者情報や空き巣、おび込みなどの発生事例が頻発しており、不審者の通報から対応までの時間が必要。

すべての意見リスト

アンケート用紙

原田地区

原田地区では、吉永地区を参考にアンケートを行うということになりました。しかしただ真似をするのではなく、よりよいものにしようと、さらなる工夫を重ねています。

まず、役員を対象に地区の自慢や課題についてアンケートを行いました。その結果をまとめ、設問の選択肢にして地区全世帯を対象にしたアンケートを7月頃を目標に行うことにしています。

役員のみなさんにアンケートを配布したところ、周囲の方々も関心を持たれたようです。地区のなかから、知らせたいこと、地区への思いが引き出されていくことが期待されます。



アンケートには、写真なども寄せられました。まちづくり行動計画のリーフレットに活用できそうです。



アンケートを通じて地区のみなさんからさまざまな情報を集めることで、協議会のことを知っていただき、まちづくりの輪が広がっていく…まちづくり行動計画づくりの新たな可能性はつくる過程がポイントになりそうです。

吉永地区の自慢・課題等

1. 地区の自慢・課題等について

地区の自慢

◇自然・歴史
・富士山の伏流水が各地で湧く。焼と湧水池の里
・かくや庵伝説発祥の地(竹採園・竹採公園)、歴史と
・地域を伝えた先人の石碑が数多い「野村一郎(治水)

◇産業・特産物
・湧水を活かした日本有数の製紙業の集積地
・豊富な農産物(お茶(やぶた)、お米、ほうれん草など)

◇生活環境・施設等
・富士市で多数の文教地区(幼・保、小中高、図書館
・生活関連施設の充実(金融機関、各種病院等)

地区の課題

◇安全・安心に関すること(交通、防災、防犯など)
・幹線道路(相方街道、南武道)をはじめ、道路幅が狭い

まとめられた課題

